

唄と奏楽でつなぐ思いと人「花田植伝承教室」

飯南町 赤来地区公民館連絡協議会

1 赤来地区公民館連絡協議会の概要

飯南町の赤来地区（旧赤来町の来島、谷、赤名地区）は、広島との県境に接した町南部の地区で、人口は2,938人、世帯数1,275戸の中山間地である。旧町時代に4校あった小学校は現在では赤名小学校と来島小学校の2校、地区内にある赤来中学校では2クラス維持が困難となり少子化、人口減少を目の当たりにしている。そうした現状の中、赤来地区公民館連絡協議会として、伝統行事伝承事業及び地域の連帯意識醸成目的のスポーツ大会などの際に連携して事業に取り組んでいる。

2 事業の概要

(1) 事業のねらい

平成22年に県公連事業「実証！地域力醸成プログラム」の助成を受け、秋季例祭の祭囃子（はやしこ）の伝承を通じて地域のつながりや郷土愛を深める活動を展開してきた。その中で挑戦した「花田植行事」の復活では、赤来中学校1年生の「ふるさと教育」として平成23年から取り組み、学校、地域、公民館の連携を深める重要な活動となってきた。そこで、今年度は中学校の取組を軸として、年齢を問わず広く花田植と祭囃子の伝承に関わる活動を展開し、地域のつながりを更に深めることを目標として事業を組み立てた。

(2) 具体的な取組

ア 花田植伝承教室

赤来中学校1学年生徒を対象に、昭和40年代に途絶えた「花田植（御田植神事）」を地域の経験者が、総合的な学習の時間を使い指導する。また、指導者育成にも取り組み、高齢化が進む指導体制の若返りにも努める。



イ 道具、装飾作り教室

花田植に使用する太鼓（付随する「ばち」）、笛、花笠、ようらく（笠の飾り）は、地域の秋季例祭で行われる「はやしこ」で使用する物と同一である。各種使用品は手作業で作られていたが、作成技術の口伝えが途絶えつつあり、我流で作成する家庭が増えてきた。特に笛は元々製作者が少なく、先ごろ製作者が急逝するなど技術の伝承が危ぶまれていた。そこで、秋季例祭前の準備期間を利用して、各種使用品のものづくり教室を開催した。



3 事業の成果と課題

(1) 成果

ア 花田植伝承教室は指導開始から4年目を迎えた。今年度は、公民館連絡協議会による事業計画立案・指導者との連携が一段と進み、それにより学校との日程調整や事業実施を円滑に行うことができた。この結果、学校での指導が充実し、予定指導時間の3分の2で花田植の唄、所作を覚え、それ以降は学園祭で発表する際のリハーサルや細かいニュアンスの指導に充てた。また、地域の花田植に関する認知度も上がり、学園祭には保護者のみならず、花田植に関心のある人々が来場していた。発表を終えた生徒に労いの声を掛けて頂き、生徒の達成感もひとしおであったかと思う。

イ ものづくり教室では、8月末と9月中旬に「笛づくり教室」を開催し、延べ20名の参加を頂き、地域の笛製作者の指導もあり、自分の作った笛で秋季例祭に参加する事が出来た。また、出来上がった笛を見て「どこで作れるのか?」「いくら位かかるのか?」など、地域の関心の高まりを感じられる言葉も耳にした。

(2) 課題

ア 現在の指導者は定年退職後の世代であり、時間はある程度都合がつくが、現役で仕事に就いている世代の指導者を養成する事ができなかった。今後は10代後半からの一般世代で花田植伝承教室を開き、行事の伝承と併せて指導者育成を図っていききたいと思う。最終目標は、田植え時期に町内で「御田植神事」を開催する事である。

イ 今年度笛づくり教室を開催したことにより、笛奏楽をする人たちの「自作」に対する関心は大いに高まった。来年度以降も定期的にものづくり教室を開催し、あらゆる方向から地域の伝統行事保存に向けて努めていきたい。地域の祭りが盛り上がれば、地域の人と人とのつながりも強まると信じている。

ウ 事業終了後、公民館連絡協議会・指導者・学校関係者での振り返りを行っている。そこで出された反省点等を次年度以降の計画立案の際に活かしていくことで、さらに充実した事業にしていきたい。

4 今後の取組等

4年に亘る伝統行事伝承活動も深まりが出てきた。これまでは大きな流れを作ることを意識していたが、地域のニーズに合わせて小さな流れにも目を向けて、伝承活動の支援にあたりたい。地域内の田から花田植の唄声が聞こえる日まで、長く支援を続けていきたい。

